

進捗状況の概要（2 ページ以内）

① 大学改革の加速

学年暦をセメスター制からクォーター制にし、学外学修体験の円滑な実施とその成果を確認するため①教学改革②学生の活動③学修成果の測定④学外実習先・留学先との連携⑤教職員の資質向上⑥評価体制の6項目をキーワードとして、教育課程の「実質化」と学修成果の「見える化」に取り組んできた。①教学改革では、3ポリシーの見直し、カリキュラムマップの作成、成績評価へのルーブリック導入等を行った。科目単位でディプロマポリシーとの関連を意識し、教育目的等を見直すことによって科目間のつながり（カリキュラムポリシー）も意識した教育を展開している。②学生の活動では地域社会を理解し、地域が抱える課題を発見する力が高まり、地域への提案ができるようになった。また、学生の各種の語学検定試験のスコアやプレゼンテーション能力も向上した。③学修成果の測定では、学修成果可視化テスト（PROG）を全学科で実施し、学生の総合的な能力の向上を検証している。また、国際コミュニケーション学科を対象に英語力測定テスト（CASEC）を行い、過年度を含めたデータと既存の教務データを併せた教学 IR 活動を行っている。④学外実習先・留学先との連携では、ギャップイヤーの期間に限らず、関係者と情報交換を行い、実習の事前から事後に至るまでスムーズに連絡調整を行うことができた。⑤教職員の資質向上では、学内 FD/SD の開催、学外 FD/SD への参加、先進校視察を行った。学内 FD/SD では、学長が本学の教学改革の方向性を示し、全教職員が共通理解を深め、我が国の高等教育の状況を本学の現状と将来構想に照らし合わせ、教育活動に反映している。学外 FD/SD 参加や先進校視察によって他の大学関係者との連携が広がると同時に、本学の活動を対外的に広報する機会となった。⑥評価体制については、地域のステークホルダーを対象にアンケート調査を行い、その結果が学生の自信になるとともに、課題を明確にすることができた。地域住民、実習先ならびに行政機関から構成する「Awesome Sasebo! Project 推進委員会」や高等教育関係者等で構成する「評価委員会」から、各取り組みに対する高い評価や専門的知見を得ることができた。また、地域における本学の役割と今後の活動への期待を感じ取ることができた。

AP 事業の推進を通して、学科という学問領域の垣根をとりはらい、地域共生学という共通した理念のもとで、学生の特性や志望する資格取得を可能とする教育課程を作ることが、本学に求められている人材を育成するために必要であるという結論に至った。その結果、大学改革の加速として地域共生学科食物栄養コース、製菓コース、介護福祉コース、国際コミュニケーションコースを設置することを機関決定した。

② 事業の実施体制

平成 27 年度に学長のガバナンスの下事業を推進するため、国際交流・地域連携委員会の中に「Awesome Sasebo! Project 推進室」を設置した。また、平成 28 年度には全学の教学改革を行うことを目的とした「大学改革委員会」を設置した。その中で学生の“学びのループ”と教職員の“教学マネジメント改善ループ”を連動させるシステムを構築し、エンrollment・マネジメントを行っている。学生の学びのループとは、学生が学習成果について自己評価を行う→現段階の自分の能力を確認→これからの夢や目標のために学ぶべきことを確認→学修ポートフォリオをもとに教員と面談→次の学習の過程である授業を選択→受講という学びの PDCA サイクルである。教職員の“教学マネジメント改善ループ”とは、教員が3つのポリシーをもとに教育目標と計画を立てる→授業を開講→学生による授業評価や公開授業による他者評価を受ける→授業点検報告書やシラバスチェックによって改善を行うという PDCA に基づいた教育改善のサイクルである。この二つのループを連動させ、一人ひとりの学生の学びを支えるエンrollment・マネジメントを機能させている。

③ 事業の実施計画・継続性

(実施計画)

教学改革：平成 28 年度より導入し 2 回目の完成年度を迎えるクォーター制について、5 年間の検証と総括を行う。それぞれの学科（コース・専攻）の特性を活かし、地域と連携した学外学修体験活動を検証・定着させる。

学生の活動：ギャップイヤー（8～11 月）で地域と連携した学外学修体験を確立する。

学修成果の測定：今まで行ってきた学修成果可視化テスト（PROG）や補助期間終了に向けて実施予定である測定テストを実施し、学生へフィードバックを行うと共に、学生の指導や支援に役立てる。

留学・海外インターンシップ先とのマッチングのための英語力測定テストを国際コミュニケーション学科で実施する。また、韓国語検定試験（TOPIK）や中国語検定試験（HSK）の結果についても分析を行い、過年度を含めたデータと既存の教務データを併せた教学 IR 活動を行う。授業外学修時間数について目標に近づける工夫と改善を行う。

学外実習先・留学先との連携：留学先や実習先を訪問し、本学の 3 ポリシーについて説明を行い、教育方法の協働開発・全体的なまとめに取り組む。

教職員の資質向上：地域社会での学びを通じた学修成果の検証を専門分野とする講師を招聘して FD/SD を開催するとともに、外部の研究会等にも積極的に参加し、教職員の資質を高める。

評価体制：地域住民や行政機関などから構成される「Awesome Sasebo! Project 推進委員会」と高等教育関係者・地域関係者から構成される「評価委員会」を開催し、最終年度の総まとめを行う。

(継続性)

補助金終了後も継続的に遂行できるよう、資金面においては平成 30 年度に 1/3、令和元年度には 1/2、本学の自己負担で事業を推進する体制を構築している。

④ 事業成果の普及

第 67 回九州地区大学教育研究協議会では、本学における AP 事業の取り組みと、教育効果について発表を行った。また、福岡女子大学・宇部工業高等専門学校・長崎短期大学の 3 校合同で開催したシンポジウムでは、学生が AP 事業を通じた学びの成果報告をし、本学の取り組みを学外に普及することができた。

また、2 月に地域住民をはじめとしたステークホルダーおよび高等教育関係者を招き、学内で成果報告会（4 件のステージ発表と 22 件のポスター発表）を行った。学生・教職員を含め、来場者数は 270 名を超え、来場者間で情報共有が図られ、各事業への発展へとつながっている。

地域での講座や高大連携講座にも学生が積極的に参加し、地域活動の報告を行っている。

他大学・短期大学からも本学取組への視察等もあり、今後も情報発信を積極的に行う。

最終年度である令和元年度には、全選定校やテーマⅣ採択校で合同シンポジウムを開催し、最終年度の報告や他大学との情報交換を行う予定である。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

本事業選定により導入したクォーター制学事暦を再度見直し、それと同時にカリキュラム改革、全学的な「3 ポリシー」の見直しを行った。これにより、どのような人材を輩出するのかを学内で共通理解し、連携して改革に取り組む組織体制が強化され、教育成果を実証的に検証することで教育の質保証につながった。

また、ギャップタームにおける中長期の学外学修の取り組みから、学生が主体的に学修する仕組みを作り上げる一連の教育体制を確立することができた。